

主要産地における令和2年産水稻の生育状況等について 第10報 (7月21日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和2年7月21日)

道府県	生育状況等		技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体等公表資料の抜粋)	(参考)
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等		
北海道	(生育)	<p>【生育状況 (7月15日現在)】</p> <p>(全道) 生育は、平年並に進んでいる。(北海道農政局 7月20日付)</p> <p>(空知) 生育は平年並である。(空知総合振興局 7月20日付)</p> <p>(石狩) 生育は平年並である。(石狩振興局 7月20日付)</p> <p>(後志) 遅速は±0日。(後志総合振興局 7月20日付)</p> <p>(胆振) 生育は平年並。(胆振総合振興局 7月20日付)</p> <p>(日高) 生育は早く止まは抽出してきている。分けつは発生は緩慢である。(日高総合振興局 7月20日付)</p> <p>(渡島) 幼穂形成期は平年に比べ1日早い。気温が高めに推移したため、生育はやや早まった。(渡島総合振興局 7月20日付)</p> <p>(檜山) 生育は概ね平年並で推移。(檜山振興局 7月20日付)</p> <p>(上川) 生育の遅速は、平年並に推移している。(上川総合振興局 7月20日付)</p> <p>(留萌) 生育は平年並に進んでいる。(留萌振興局 7月20日付)</p> <p>(オホーツク) 生育はやや進んでいる。(オホーツク総合振興局 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>北海道地方の向こう1か月の平均気温は、日本海側とオホーツク海側で高い見込み。太平洋側で平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は日本海側で、ほぼ平年並、オホーツク海側と太平洋側で平年並か少ない見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>北海道地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p>	<p>・主要品種に大きな変動はないものの、直播栽培に適した新品種「なみまる」が増加すると見込まれる。</p> <p>(農林水産省 3月17日)</p> <p>(以下同)</p>
青森	(生育)	<p>【7月15日現在】(県生育観測所の生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平年と比較して、草丈は並～やや長め、茎数は少なめ～並となっている。</li> <li>・幼穂形成期は、「つがるロマン」が7月11日で平年より3日早く、「まっしぐら」が7月10日で平年より2日早まっている。</li> </ul> <p>・7月15日以降の気温が平年並に推移した場合、出穂期は「つがるロマン」が8月2日～7日頃、「まっしぐら」が8月2日～17日頃と予想される。</p> <p>(青森県 7月17日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「つがるロマン」「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和2年産も同様の傾向になるものと考えられる。</p>
岩手	(生育)	<p>【7月15日現在】</p> <p>(1) 農業研究センター (北上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全品種とも、草丈は平年より長く、茎数は平年並みから多く、葉齢は平年よりやや少なくなっている。葉色は平年並みからやや濃くなっている。</li> <li>・「ひとめぼれ」は7月15日(平年より1日遅い)に、「あきたこまち」は7月10日(平年より1日遅い)に、「銀河のしずく」は7月9日(平年より1日早い)に幼穂形成期に達した。</li> </ul> <p>(2) 県農業研究所 (軽米)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いわてつご」の草丈、茎数は平年を下回っており、葉齢は平年並みである。葉色は平年をやや下回っている。</li> <li>・7月9日(平年同)に幼穂形成期に達した。</li> </ul> <p>(岩手県農業研究センター 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県では「ひとめぼれ」「あきたこまち」からオリジナル品種「銀河のしずく」に転換を図ることとしている。</p>
宮城	(生育)	<p>【7月10日現在】(県全体の平均)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は62.7cm(平年比105%)、1㎡当たりの茎数は539本(平年比96%)、葉数は10.8枚(平年差±0枚)、葉色はR値が41.1(平年差+6)となっている。幼穂長は1.8mm(平年差-1.0mm)となっており、北部平原地帯での幼穂形成期は7月7～10日頃で生育は概ね順調である</li> <li>・今後の気温が平年並みで推移した場合、北部平原地帯における出穂期は8月2日頃になる見込み。(宮城県 7月13日付)</li> </ul> <p>(美里) 管内の多くのほ場で幼穂形成期に入っており、特に早生品種や移植時期が早かったほ場では、減数分裂期に達している可能性がある。(美里農業改良普及センター 7月16日付)</p> <p>(栗原) 生育調査ほ(移植)生育状況(7月10日現在)</p> <p>多くのほ場で幼穂形成初期に達している。(栗原農業改良普及センター 7月13日付)</p> <p>(石巻) 草丈は「ひとめぼれ」「ササニシキ」共に平年に比べて長くなっている。茎数は「ひとめぼれ」と「ササニシキ」共に平年より少なくなっているが、有効茎数を確保している。7月10日現在の予測では、管内の出穂日は8月3日ごろの見込み。(石巻農業改良普及センター 7月14日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、「つや姫」が増加傾向となっている。「萌えみのり」「だて正夢」はやや増加傾向にある。</p>
秋田	(生育)	<p>(由利) 多くの園地で幼穂形成期に入っている。(7月20日付)</p> <p>(山本) 7月15日の水稲定点調査結果(9地点の平均)は、草丈66.3cm(平年比105%)、茎数544本/㎡(平年比105%)、葉数11.1(平年比±0)、葉色42.1(平年比100%)となっている。幼穂形成期に入っている。(7月17日付)</p> <p>(平鹿) 7月15日現在の水稲定点調査(あきたこまち11ヶ所)では、草丈67.3cm(平年比106%)、茎数526本/㎡(同比102%)、葉数11.0葉(同差-0.1葉)となっている。(7月17日付)</p> <p>(秋田) 6月25日の調査では、草丈はやや高く、茎数、葉色は平年並みとなっている。(6月26日付)</p> <p>(鹿角) 6月25日の水稲生育点調査では、草丈39.4cmで長く(平年比105%)、㎡当たり茎数は491本で多く(平年比127%)、葉数は9.0葉でやや多く(平年差+0.2)、葉色はSPAD値43.4で薄い(平年比95%)。(7月3日付)</p> <p>(北秋田) 6月下旬以降、日気温が小さい日が続き、茎数増加が抑制され生育は平年並み。(7月10日付)</p> <p>病害虫の目立った発生は見られていない。(7月10日付)</p> <p>(雄勝) 本年は気温が高めに推移したことから、分けつは発生が促進された。(7月3日付)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はないものの、「めんこいな」「ゆめおぼこ」等の多収性品種が増加傾向となり、一定のウエイトを占めてきた。</p>
山形	(生育)	<p>【7月20日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平坦部「はえぬき」の生育は、草丈、茎数、葉数は平年並み、葉色は、平年よりやや濃い状況となっている。農業総合研究センターの幼穂調査によると、出穂期は概ね平年並みと予想している。低温・日照不足の影響が懸念される。</li> <li>・「つや姫」の生育は、草丈、茎数、葉数は平年並み、葉色は、平年より濃い状況となっている。予想出穂期は、農業総合研究センター(山形市のりが丘)では8月7日頃(平年8月7日)、水田農業研究所(鶴岡市藤島)では8月9日頃(平年8月10日)であり、概ね平年並と見込まれている。</li> <li>・「雪若丸」の生育は、指播と比べ、草丈、葉数は並み、茎数は多く、葉色は濃い状況となっている。出穂は、農業総合研究センター(山形市のりが丘)で8月3日頃(平年8月2日)、水田農業研究所(鶴岡市藤島)で8月3日頃(平年8月2日)と概ね平年並の見込み。</li> </ul> <p>(山形おいしさ際立つ!米づくりプロジェクト本部 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「はえぬき」「つや姫」「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島	(生育)	<p>【7月14日現在】</p> <p>(1) 作況ほ場および肥料・農業展示ほ場の生育状況(郡山市・J.A福島さくら・県で設置している作況ほ場および肥料・農業展示ほ場の生育を各品種ごとに平均した結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平坦部では全般的に、草丈はやや長く、茎数はやや少なく、葉色は平年並の状況にある。また、葉齢は進んでいる。</li> <li>・7月14日時点で、ひとめぼれが幼穂形成期となっており、直播や移植時期が遅いものでは幼穂が未確認。</li> <li>・海岸部では、草丈はやや長く、茎数はやや少なく、葉色は濃い状況にある。また、葉齢は平年並で、7月14日時点で幼穂形成期となっている。</li> </ul> <p>(2) 福島県農業総合センター生育観測作病解析試験(慣行栽培・5月15日移植)では、7月14日現在、草丈は平年並、茎数は平年並～やや少なく、出葉は平年より3～4日進み、葉色は平年並。</p> <p>(郡山市農作物生産対策協議会 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「コンヒカリ」「ひとめぼれ」を中心とする品種構成で、近年「天のつば」が増加傾向となっている。</p>

	生育状況等		
茨城	<p>【水稲の生育状況（7月9日現在、水戸市）】 （5月1日移植・対年並速達） 「あきたこまち」1日遅い、「ふくまる」年並、「コシヒカリ」年並。 （5月11日移植・対年並速達） 「コシヒカリ」3日遅い。  （茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月14日付）</p> <p>（生育） 【水稲の生育状況（7月6日現在、龍ヶ崎市）】 （4月24日移植・対年並速達） 「あきたこまち」1日遅い、「ふくまる」1日遅い、「コシヒカリ」2日遅い。 （5月1日移植・対年並速達） 「あきたこまち」6日遅い、「コシヒカリ」7日遅い。 ・出穂期は、「あきたこまち」で7月12日、「ふくまる」で7月16日であり、両品種とも年より1日遅い。今後気温が年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は、「コシヒカリ」で年より2日遅い7月24日。  （茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月20日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。 降水量は年並が多い見込み。 日照時間は少ない見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「ふくまる」がやや増加傾向にある。</p>
栃木	<p>【7月6日生育調査】</p> <p>(1) コシヒカリ ・草丈は高く（年比107%）、葉数は多く（106%）、葉齢は年より0.1多い。葉色は前回の調査では年より0.8 淡く、生育診断値（葉色×葉数）は年比91%であったが、葉色は年並に回復し、生育診断値（葉色×葉数）は年比105%となった。 ・幼穂は0.6mm（昨年10.9mm）となっている。現地は葉数は54～58本/m<sup>2</sup>で、葉色は一部濃い見込み。</p> <p>(2) とちぎの星 ・草丈は高く（年比111%）、葉数はやや少なく（96%）、葉齢は年より0.2少ない。葉色は年より0.6 淡く、生育診断値（葉色×葉数）は年比83%となっている。 ・現地は葉数は53～59本/m<sup>2</sup>で、葉色はやや濃い。普通栽培（6月16日移植・足利市）は葉数確保が順調に進んでいる。</p> <p>(3) 宇都宮市で5月4日移植コシヒカリの出穂は7月27日～28日頃と昨年より4～5日早い予想。 （栃木県 7月10日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。 降水量は年並が多い見込み。 日照時間は少ない見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。なお、オリジナル品種「とちぎの星」がやや増加傾向にある。</p>
千葉	<p>・7月上旬は日照時間が少なかったものの、気温が年より高く推移したため、生育の進みは早生・中生で年並み、晩生でやや早くなっている。</p> <p>（生育） ・4月2日植えの出穂期は、「ふさおとめ」が7月8日頃（年より2日早い）、「ふさこがね」が7月11日頃（2日早い）、「コシヒカリ」が7月15日頃（3日早い）、「粒すけ」が7月15日頃（3日早い）。</p> <p>・5月1日植える「コシヒカリ」は7月22日頃（3日早い）から出穂期を迎えると予測される。  （千葉県 7月9日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。 降水量は年並が多い見込み。 日照時間は少ない見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「ふさこがね」「ふさおとめ」を中心とする品種構成であり、近年「ふさこがね」が増加傾向にある。</p>
新潟	<p>【7月20日現在の生育状況】 「コシヒカリ」 指標値に比べ、草丈は「やや長い」、葉数の進みは「並」の状況。葉色は県平均では「やや濃い」、葉数も県平均では「並」だが、地域差が大きい状況。出穂期は年並の8月5日頃と見込まれる（全県の予測）。</p> <p>「新之助」 指標値に比べ、草丈は「やや長い」、葉数の進みは「並」、葉数と葉色は地域差が大きく、葉数は「少ない～多い」、葉色は「並～濃い」状況。出穂期は年より1日遅い8月11日頃と見込まれる（全県の予測）。</p> <p>「こしいぶき」 指標値に比べ、草丈は「並」、葉数は「やや多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「濃い」状況。出穂期は年より2日早い7月25日頃と見込まれる（全県の予測）。 （新潟県 7月21日付）</p> <p>(三 条) 「コシヒカリ」の生育 草丈がやや長く、葉色がやや濃い、ほぼ指標値とあり概ね順調。5月5日植えで出穂予想は8月2日頃。 （三条農業普及指導センター 7月20日付）</p> <p>(長 岡) 「コシヒカリ」葉色は、指標よりやや濃い、平場を中心に急速にさめてきている。（長岡農業普及指導センター 7月20日付） （魚 沼）指標値に比べて、草丈、葉数、葉齢、葉色、葉色、やや濃い。（魚沼農業普及指導センター 7月20日付） （南魚沼）出穂が前年と同程度早まる見込み。（南魚沼農業普及指導センター 7月9日付）</p> <p>(上 越) 「コシヒカリ」の生育は、葉色が濃く、葉数淘汰が緩慢です。下位節間の伸長による倒伏の発生が懸念され、もみ数過剰となる恐れがある。「こしいぶき」の生育は、草丈はやや長く、葉数は多く、葉色は濃くなっている。 （上越農業普及指導センター 7月8日付）</p> <p>(糸 魚川) 全体的に、生育は順調。現時点の予想では、出穂期は前年よりやや遅く年並みの見込み。 （糸魚川地域振興局農林振興部 7月20日付）</p> <p>(佐 渡) コシヒカリの出穂期は、年並みと予想される。（佐渡農業普及指導センター 7月20日付）</p> <p>(新潟) 管内のコシヒカリ生育状況 出穂期は年よりやや遅い見込み。（前年に比べ3日程度遅い）。極早生品種では出穂期を迎えているほ場もある。（出穂の遅れは中生以降より少ない見込み）（新潟農業普及指導センター 7月21日付）</p> <p>(新潟) 【生育調査結果（7月20日調査）】コシヒカリ、新之助の出穂期は2日程度遅れる見込み。 （新潟農業普及指導センター 7月20日付）</p> <p>(岩 手) コシヒカリの出穂期は、年並に比べ1日程度早まる見込み。（村上農業普及指導センター 7月20日付）</p> <p>(巻) コシヒカリの出穂期は年より2日程度早い見込み。（巻農業普及指導センター 7月8日付）</p> <p>(柏崎) コシヒカリの出穂期は5月10日植えで8月2日、5月20日植えで8月4日の見込み。（柏崎農業普及指導センター 7月20日付）</p> <p>(十日町) 長雨と日照不足により、草丈が伸び倒伏が心配される状況となっている。出穂期は早生品種や田植えの早いコシヒカリで年並み、田植えの遅いコシヒカリでやや遅い見込み。（十日町農業普及指導センターほか 7月20日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】 北陸地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。 降水量は年並が多い見込み、日照時間は少ない見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「こしいぶき」を中心とする品種構成を、近年「コシヒカリ」が減少傾向にある。また、県では新品種「新之助」の作付拡大を推奨している。</p>
富山	<p>【7月14日生育観測】</p> <p>(1) コシヒカリ ・年並に比べて、草丈、葉数、葉齢、葉色は並みとなっている。出穂期は、今後、年並みの気温で推移した場合、年並みの8月2日頃と見込まれる。</p> <p>(2) てんこもり ・年並に比べて、草丈、葉色は並み、葉数はやや少なく、葉齢はやや遅れている。出穂期は、今後、年並みの気温で推移した場合、年より1日遅い8月5日頃と見込まれる。</p> <p>(3) てんたくく 5月2日移植の「てんたくく」の出穂期は、年より4日早い7月16日頃と見込まれる。</p> <p>(4) 富富富 近年に比べて、草丈、葉数、葉齢、葉色は並みとなっている。今後、気温が年並みに推移すると、出穂期は、近年より2日遅い8月5日頃と見込まれる。  （富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月14日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】 北陸地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。 降水量は年並が多く、日照時間は少ない見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、高温多湿でも品質が安定している「てんこもり」「富富富」が増加傾向にある。</p>
石川	<p>【本田の生育7月8日調査】</p> <p>(出穂期予想) ・「ゆめみづほ」は、加賀地域では年並に比べ3～5日程度早く、前年に比べ1～2日程度早い。 ・能登地域では年並に比べ5日程度早く、前年並。 ・「コシヒカリ」は、加賀地域では年並に比べ4日程度早い～年並で前年並。 ・能登地域では年並に比べ2～7日程度早く、前年並。</p> <p>（石川県農林総合研究センター 7月9日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】 北陸地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。 降水量は年並が多く、日照時間は少ない見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年県オリジナル品種の「ひくまん穀」が増加傾向にある。</p>
福井	<p>・日照不足の影響で稲穂は軟弱となり、一部では葉いもちの発生も見られている。  （福井県農業総合指導推進会議 7月15日付）</p> <p>（生育） 【7月9日調査】 ・長雨の影響により、いもち病の発生が見られる。 ・移植のコシヒカリは、早いところで7月10日 前後に幼穂形成期を迎えている。  （水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月10日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】 北陸地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。 降水量は年並が多く、日照時間は少ない見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「ハナエチゼン」を中心とする品種構成であるが、近年「コシヒカリ」が増加傾向にある。「あさかり」が増加傾向にある。なお、新品種である「いちほまれ」も増加傾向にある。</p>
長野	<p>【標高340m須坂市八重森の農業試験場における水稲生育状況（7月20日現在）】 ・移植後40日の生育は、いずれの品種もおおむね年並みとなった。 ・幼穂形成期は「あきたこまち」で年より2日遅く、「コシヒカリ」で年並み、「風さやか」で1日早かった。</p> <p>【標高1017m原村の原村試験場における水稲生育状況（7月20日現在）】 ・移植後50日調査では、低温、降雨の影響で生育はやや停滞したと思われる。 ・幼穂形成期は「きらりん」、「ゆめしなの」で年より2日早く、「あきたこまち」で2日遅かった。  （長野県農業試験場 7月20日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】 関東甲信地方の向こう1か月の気温は、ほぼ年並の見込み。 降水量は年並が多い見込み。 日照時間は少ない見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<p>・「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県オリジナル品種として「風さやか」の導入を推奨している。</p>

	生育状況等		
滋賀	<p>【農業技術振興センター水稲作況調査（6月30日時点）】</p> <p>（5月11日移植）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「みずかがみ」「コシヒカリ」とも、生育は6月上旬までは平年並であったが、6月中旬以降は降水量が平年より少なく推移している。</li> <li>幼穂形成期は、「みずかがみ」は6月29日と平年並、「コシヒカリ」は7月4日と平年より1日遅く、「みずかがみ」では、7月22日頃に収穫期を迎える見込み。</li> </ul> <p>（滋賀県農業技術振興センター 7月10日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>近畿地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多い見込み。日照時間は日本海側で少なく、太平洋側で平年並か少ない見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「日本晴」を中心とする品種構成であるが、近年「コシヒカリ」「キヌヒカリ」が減少傾向となっている。高温多湿性に優れた「みずかがみ」を増加する計画である。</li> </ul>
兵庫	<p>（県北）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コシヒカリの葉齢の進展は平年よりやや遅く、草丈はやや長く、茎数は少ない。遅植えでは葉齢の進展はやや遅く、草丈はかなり長く、茎数はかなり多い。</li> </ul> <p>（生育）</p> <p>（県北以外）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。茎数は多い。</li> </ul> <p>（兵庫県 7月3日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>近畿地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多い見込み。日照時間は日本海側で少なく、太平洋側で平年並か少ない見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」「山錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付推進を図っている。</li> </ul>
岡山	<ul style="list-style-type: none"> <li>茎数は概ね平年並で推移している。</li> <li>極早生種の生育は概ね平年並である。</li> </ul> <p>（生育）</p> <p>（岡山県 7月2日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は少ない見込み。（気象庁広島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁広島地方気象台）</p> <p>【病害虫注意報】</p> <p>トビイロウンカ（7月9日発表）（農林水産省 7月15日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「アケボノ」「ヒノヒカリ」「あきたこまち」「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。近年「きぬむすめ」が増加傾向となっている。</li> </ul>
広島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は少ない見込み。（気象庁広島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁広島地方気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あきさかり」が増加傾向にある。</li> </ul>
愛媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁高松地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁高松地方気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</li> </ul>
高知	<p>【早期稲 7月3日時点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出穂期は、4月6日植えの「南国そだち」と「コシヒカリ」では平年並みで、4月14日植え「コシヒカリ」は平年よりやや早く進んでいた。</li> </ul> <p>【普通期稲 7月3日時点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>草丈は平年より低く、茎数が多く、葉齢は平年並みで生育している。</li> </ul> <p>（高知県農業技術センター 7月8日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は少ない見込み。（気象庁広島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁高松地方気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期栽培では「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年、高温多湿性に優れた「よき恋実入」が増加傾向にある。「南国そだち」は減少傾向。</li> <li>普通栽培では「にこまる」が増加傾向にある。</li> </ul>
福岡	<p>【7月1日現在】</p> <p>（1）早生水稲（夢つくし、つばね）</p> <p>現在、幼穂形成期～穂ばらみ期で、草丈はやや高く、茎数は平年並み。移植後の低温の影響で初期生育はやや遅れていたが、5月上旬からの高温多照により、生育は回復しており、出穂期は平年並の7月9～15日頃の見込み。</p> <p>（2）普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）</p> <p>田植えの最盛期は、「夢つくし」が6月上中旬、「元気つくし」が6月中下旬、「ヒノヒカリ」が6月下旬であり、麦の収穫が早かったことから平年よりやや早く進んでいる。苗の活着は、田植え後の高温多照の影響により概ね良好で、生育は順調。</p> <p>（福岡県農林業総合試験場 7月1日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は少ない見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【病害虫注意報】</p> <p>トビイロウンカ（7月14日発表）（農林水産省 7月15日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ヒノヒカリ」「夢つくし」「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向。「夢つくし」「元気つくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後、新品種「夢つくし」の拡大を推奨している。</li> </ul>
熊本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は少ない見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁福岡管区気象台）</p> <p>【病害虫注意報】</p> <p>トビイロウンカ・コブノメイガ（7月10日発表）（農林水産省 7月15日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ヒノヒカリ」「森のくまさん」「コシヒカリ」を中心とする品種構成に、大きな変化はない。</li> </ul>
宮崎	<p>【作物の生育状況（6月中旬）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>早期水稲は穂ばらみ期、普通期水稲は移植前後（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月23日）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みさき358」への作付誘導が進められている。</li> </ul>
鹿児島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月18日～8月17日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁鹿児島地方気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なつほのか」及び「あきほなみ」が増加傾向である。</li> </ul>

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。  
注2：令和2年7月21日 15時時点での取り纏め。  
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月20日)、  
農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月20日)、  
農作物生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月20日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月20日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月20日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月20日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月20日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月20日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月20日)、  
農作物生育状況調査の概要 7月15日現在(北海道留萌振興局 7月20日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月20日)、  
稲作生産情報第6号(青森県 7月17日)、  
令和2年度水稲生育定期調査結果No.5(7月15日現在)(岩手県農業研究センター 7月17日)、  
令和2年度水稲の生育状況について(7月10日現在)(宮城県農政部みやぎ米推進課 7月13日)、  
令和2年度美里地区の稲作情報臨時号(宮城県美里農業改良普及センター 7月16日)、  
栗原の稲作通信令和2年第5号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月13日)、  
稲作情報(vol.5)(宮城県石巻農業改良普及センター 7月14日付)、  
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 7月20日)、  
米づくり技術情報第10号(山形おいしき際立つ!米づくりプロジェクト本部 7月20日)、  
雪が丸技術情報No.8(山形おいしき際立つ!米づくりプロジェクト本部ほか 7月20日)、  
「こおりやまの米」通信 生育状況速報(7月14日現在)(郡山市農作物生産対策協議会 7月20日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月14日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月20日)、  
令和2(2020)年度水稲生育診断予測事業速報No.4(栃木県 7月10日)、  
水稲の生育と当面の対策第5報(千葉県 7月9日)、  
水稲の生育と今後の管理対策(第6号)(新潟県 7月21日)、  
新発田地域水稲生育速報No.6(新発田農業普及指導センター 7月21日)、  
水稲生育速報No.5(巻農業普及指導センター 7月8日)、  
FAX稲作情報No.9(三条農業普及指導センター 7月20日)、  
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 7月20日)、  
コンヒカリ生育情報(魚沼農業改良指導センター 7月20日)、  
稲作情報No.6(南魚沼農業普及指導センターほか 7月9日)、  
コンヒカリ・こしいぶき生育速報(7月8日)(上越農業普及指導センター)、  
柏崎・刈羽地域稲作だより共通版No.7(柏崎農業普及指導センター 7月20日)、  
令和2年度糸魚川売れる米づくりコンヒカリ生育情報No.6(糸魚川地域振興局 7月20日)、  
令和2年度稲作生育速報No.6(佐渡農業普及指導センター 7月20日)、  
十日町地域稲作生育速報(十日町農業普及指導センターほか 7月20日)、  
稲作速報No.6(新潟農業普及指導センター 7月20日)、  
R2岩船米生育速報(村上農業普及指導センター 7月20日)、  
TACS情報第8号(富山県 7月14日)、  
令和2年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-7号)(石川県農林総合研究センター 7月8日調査)、  
稲作情報No.11(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月10日)、  
水稲高標高試験圃の生育状況(令和2年)(長野県農業試験場 7月20日)、  
農業試験場水稲試験圃の生育状況(令和2年)(長野県農業試験場 7月20日)、  
令和2年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月10日)、  
令和2年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県 7月3日)、  
令和2年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 7月2日)、  
令和2年度における早期水稲の生育状況(7月3日時点)(高知県農業技術センター 7月8日)、  
福岡県の主な農産物の生産情報(福岡県 7月1日現在)、  
令和2年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月23日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月9日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月9日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月9日気象庁)、  
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月9日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月9日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月9日広島地方気象台)、  
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月9日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月9日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月9日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(6月24日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(6月24日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(6月24日気象庁)、  
北陸地方こう3か月の天候の見通し(6月24日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(6月24日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(6月24日広島地方気象台)、  
四国地方こう3か月の天候の見通し(6月24日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(6月24日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(6月24日鹿児島地方気象台)、

「令和2年度病害虫発生予報第5号(水稲特集)」の発表について(農林水産省 7月15日)  
令和2年度水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月17日)